

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園	Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	「100%企業就労」という開校当時のミッションを踏まえて、目指す学校像が設定されている。来年度開校10年目を迎えるに当たり、学校の現状や課題、寄せられる期待などをより広く把握・分析し、目指す学校像を更に具体的かつ魅力あるものにしていただきたい。
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	地域の期待、生徒の学力や進路の実態を踏まえ、重点目標が設定されている。長らく同様の目標が続いているので、学校内外の環境分析などを踏まえ、課題の解決に向けて中期的な視点に立ち、目指す学校像の内容との関連性を意識したものにすることが望まれる。
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校全体のシートに基づいて分掌・学年等のシートが作成されるなど、重点目標達成のための取組が進められている。「重点目標→評価項目→方策」の連鎖が分かりにくい部分があるので、関連性を意識するとともに、課題の解決に向け、学校自己評価システムが十分機能するように工夫していただきたい。
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	学校全体のシートに基づいた方策が分掌・学年等で策定され、どの時期に何をやるのかを明確にして計画的に実施されている。分掌・学年等のシートを学校全体の目標と相互に有機的に結び付けて、更に組織的に課題の解決に取り組めるようにすることが望まれる。
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長は組織力を高め、学校自己評価システムを生かした学校経営に取り組もうとしている。校長が状況に即して的確にリーダーシップを発揮し、授業改善や就労後の定着支援など課題の解決の方向を示している。その達成に向けて教職員が一丸となって更に組織的に取り組むことが期待される。
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	保護者アンケートや学校説明会での中学生の保護者アンケートなどを実施し、学校自己評価のために必要な情報が収集されている。今後は学校改善を推進する組織を明確にし、分掌と学年、学校全体を相互に連携させ、より組織的なPDCAサイクルを確立していただきたい。
特記事項		